

子宮頸癌

ほとんどの子宮頸癌はヒトパピローマウイルス(HPV)の長期間の感染による発症である。子宮頸癌の最大の特徴は、予防可能な癌であるという点である。これは異形成(子宮頸癌になる前の病変)が発見可能なためであり、定期的な子宮頸癌検診により、異形成の段階で発見・治療することにより癌の発症を未然に防ぐことができる。

病因

子宮頸部扁平上皮癌はヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルス感染が原因で引き起こされることがほとんどである。HPVには100以上もの種類があり、皮膚感染型と粘膜感染型の2種類に大別される。子宮頸癌は粘膜感染型HPVの中でも高リスク型HPVと呼ばれている性交渉によって感染する一部のHPVが長期間感染することによって引き起こされる。

HPVは性交渉により感染するウイルスであり、性交経験のある女性では誰でも感染しうる。ほとんどの女性は感染履歴を有すると考えられる。HPVに感染しても多くの場合は、免疫力によってHPVが体内から排除される。HPV感染の大半は2年以内に自然消失するが、約10%の人では感染が長期化(持続感染化)する。HPVが持続感染化するとその一部で子宮頸部の細胞に異常(異形成)を生じ、さらに平均で10年以上の歳月の後、ごく一部(感染者の1%以下)が異形成から子宮頸癌に進行する。

予防

子宮頸癌は検診を定期的を受診することでほぼ確実に予防可能である。

また、HPV感染のうち、下記4種類に対する発病に関してはワクチンもある。

HPVは性交渉により感染するので、他の癌と比べ発症する年代が若い世代にも及び、20代で発症するケースもある。よって20代からの定期検診は有効である。また性交渉の際コンドームを使用することもある程度予防に繋がる。HPVに感染してから異形成(前癌病変)を経て、子宮頸癌を発症するまで、平均十数年以上の長期間を要するが、異形成は子宮頸癌は細胞診とHPV検査の併用による検診でほぼ確実に発見することが可能である。異形成は治療でほぼ完治する。このため、子宮頸癌は定期的な検診受診で予防が可能といわれている。

ヒトパピローマウイルスワクチン

HPV 6・11・16・18型に対する4価のワクチンと、16・18型に対する2価のワクチンが2006年に米国をはじめ諸外国で承認された。日本人の子宮頸癌では諸外国に比しHPV 52・58型が多いのが特徴である。現存するワクチンは外国で企画製作されたためHPV 52・58型をまったくカバーしないのは残念である。

2007年現在、9歳以上が適応で、3回の接種で完了するワクチンである。ワクチンの有効期間は20年以上と予測されているが、ワクチンの種類によっては数年で切れるものも報告されている。

4価ワクチンはHPV 6・11・16・18型の四抗原が責任となる病変の予防に関しておよそ90%以上の有効率があるとメーカーは発表。初性交の前に接種するのが推奨されている。諸外国では小学生のうちに接種する国がほとんどである。感染後接種はHPVの増殖を刺激・ブーストするという報告もある。決して、子宮頸癌の治療や再発予防には効果がないだけでなく、絶対に接種しないこととなっている。ワクチンの接種は定期的な、子宮癌検診を代用するものではないので、引き続き、定期健診は重要である。

日本国内では2009年10月にワクチン認可がされたが公費負担などは決まっていないが個人輸入を取り扱っている医療機関で申し込むことにより接種可能である。

HPVワクチンによる子宮頸癌予防

井上 正樹 金沢大学医学系研究科産婦人科学

20世紀後半からの腫瘍ウイルス学研究はHPVが子宮頸癌の原因ウイルスであることを明白にした。HPVは性行為にて感染することが疫学的にも明らかとなり、HPV感染を予防することで子宮頸癌を撲滅する戦略が見えてきた。その基軸をなすものはHPVワクチンの開発である。現在実用化されているワクチンはHPVの外郭蛋白をつくるL1遺伝子を酵母菌や昆虫細胞で発現させる遺伝子組換え型ワクチンである。HPV-DNA 16/18型に対する2価ワクチンとHPV16/18型に尖圭コンジローマの原因ウイルスである6/11型を加えた4価ワクチンの2種類が実用化されている。ワクチンには重篤な副作用は無く「前癌病変」や「コンジローマ」をほぼ100%防御する。既に世界の多くの国で承認され、若年女性を中心に接種が開始されている。

井上 正樹: “HPVワクチンによる子宮頸癌予防”. ウイルス, Vol. 58, pp.155-164 (2008) .



子宮頸がんワクチン（サーバリックス）接種について



《対象となる方》 10歳以上の女性でワクチンの接種内容について同意された方

《お申し込み手順》

- ① ワクチンについての説明：接種の対象や、有効性・副反応についてご説明いたします。
- ② 説明内容を了解し接種を希望された方は、申し込み、接種日の予約をいたします。
- ③ 予約確認後、ワクチンを発注し準備いたします。

《接種回数と料金》

- ① 接種回数：3回（2回目は1回目の1ヵ月後、3回目は2回目の5ヵ月後に接種）
- ② 接種料金：
 - 1回目・2回目 各 15,000 円
 - 🚩 申し込み時に合計の 30,000 円をお支払ください。
 - 🚩 初回接種で副反応等により 2 回目接種が不適切と判断された場合は 2 回目料金はお返しいたします。
 - 🚩 但し、その他の事情による返金はいたしかねますのでご了承ください。
 - 3回目 20,000 円
 - 🚩 2 回目接種時にお支払ください。
 - 🚩 予約日に来院なく未接種となった場合の返金はいたしかねますのでご了承ください。
 - 🚩 ご希望の方には接種予定日の 1 ヶ月以内に接種予定日葉書をお送りいたします。

但し、

当院は接種委託医療機関となっております。公的補助対象年齢の方は無料接種となります。

----- 切り取り線 -----

お申し込み用紙

私は、子宮頸がんワクチンについて十分に説明を受け、予防のためのワクチンの接種を希望いたします。

申し込み日付 平成 年 月 日

フリガナ

生年月日

氏名

(S・H 年 月 日)

住所

(TEL)

保護者氏名

(接種申込者が小学生、中学生、高校生に相当する年齢の場合は必ずお書きください。)